

2. 留学生 / About international students

2-1. 回答留学生の属性と就職に関する希望

実施期間：平成 20 年 6 月～7 月

実施方法：静岡県留学生等交流推進協議会より静岡県下の高等教育機関を通して依頼

回答媒体：質問紙、または web アンケート

回答者数：756/1500 人（回答率 51%）

回答者の属性：回答者の出身地（図 15、図 16 参照）

男 354 人、女 393 人、無回答 9 人

既婚者 89 人、未婚者 662 人、無回答 5 人

既職者 147 人、未職者 599 人、無回答 10 人

図 15：出身地域別回答者数（人）

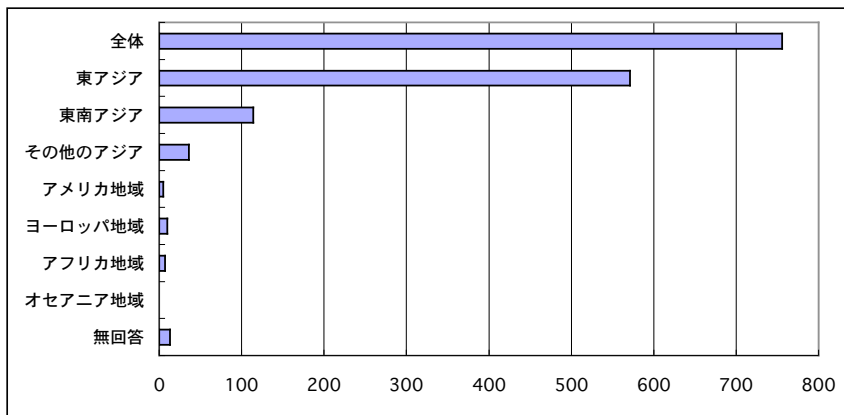
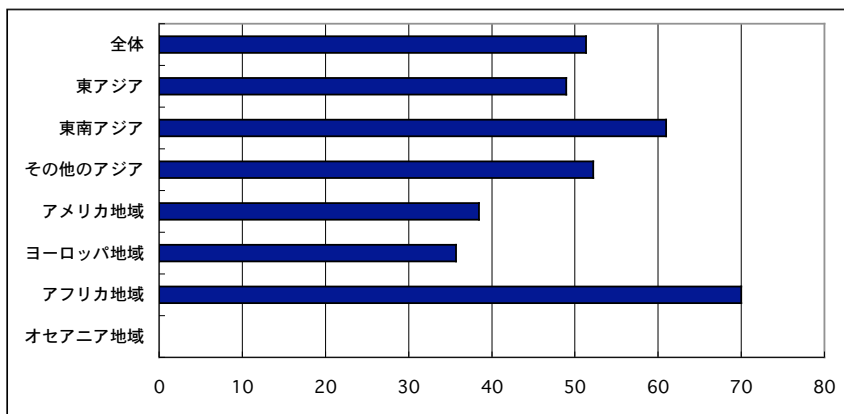


図 16：出身地域別回答率（%）



日本での就職希望者は回答者の半数以上を占めている（図 17）。回答率の高さから、日本での就職であっても、母国での就職であっても、卒業後の進路に関心が高いことが分かる。静岡県で勉学している留学生の 8 割が東アジア出身であるため、回答者も東アジア出身者が多くなった（図 18）。就職希望は、性別（図 19）、

既婚未婚の別（図 20）、就業経験の有無（図 21）によって人数は異なるものの、傾向にそれほど違いが見られない。性別、既婚未婚の別、就業経験の有無は、就職の希望に影響を与えないようである。

図 17：就職に関する希望（人）

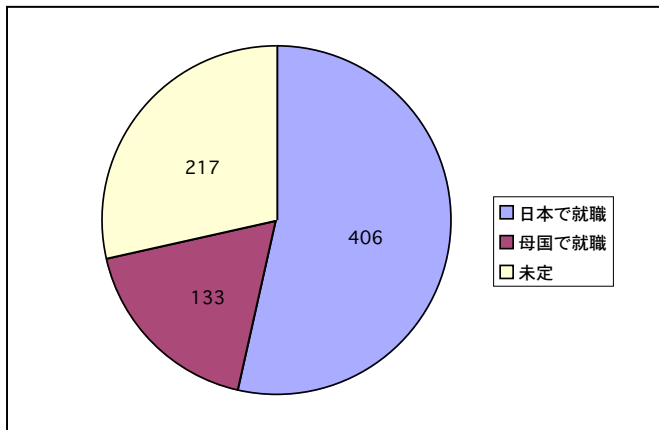


図 18：就職希望別回答者の出身地（%）

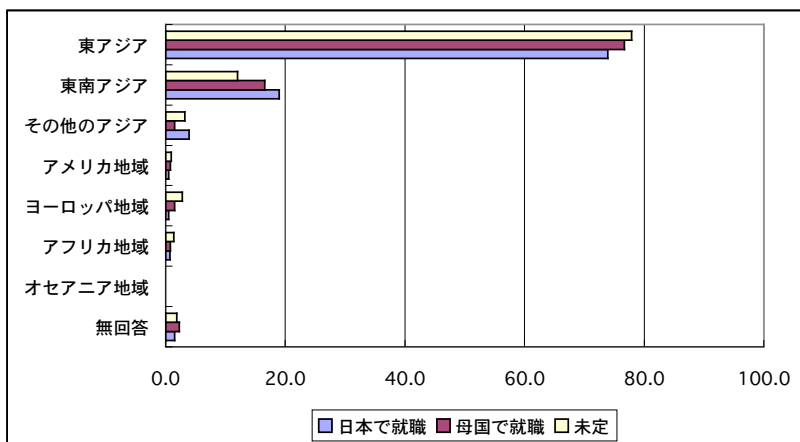


図 19：就職希望別回答者の性別（人）

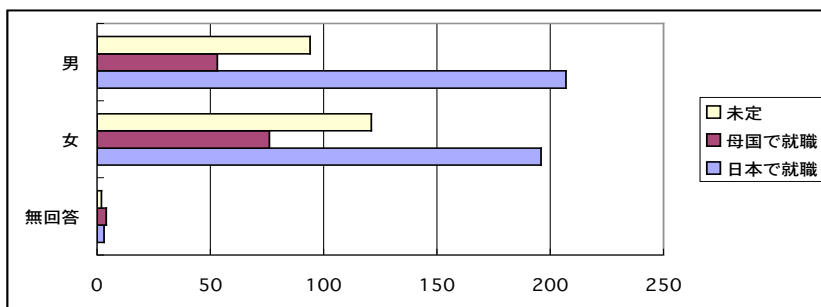


図 20：就職希望別回答者既婚未婚の別（人）

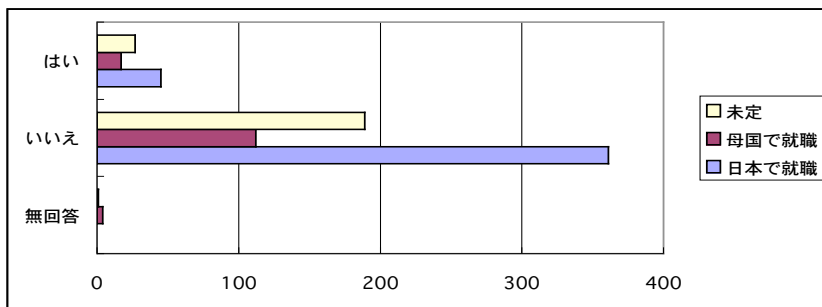
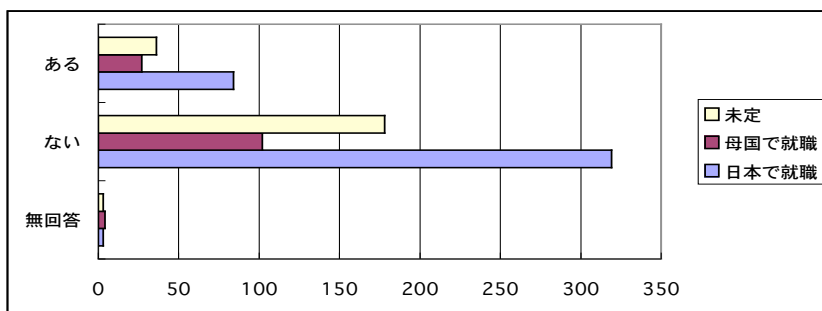


図 21：就職希望別回答者の就業経験（人）

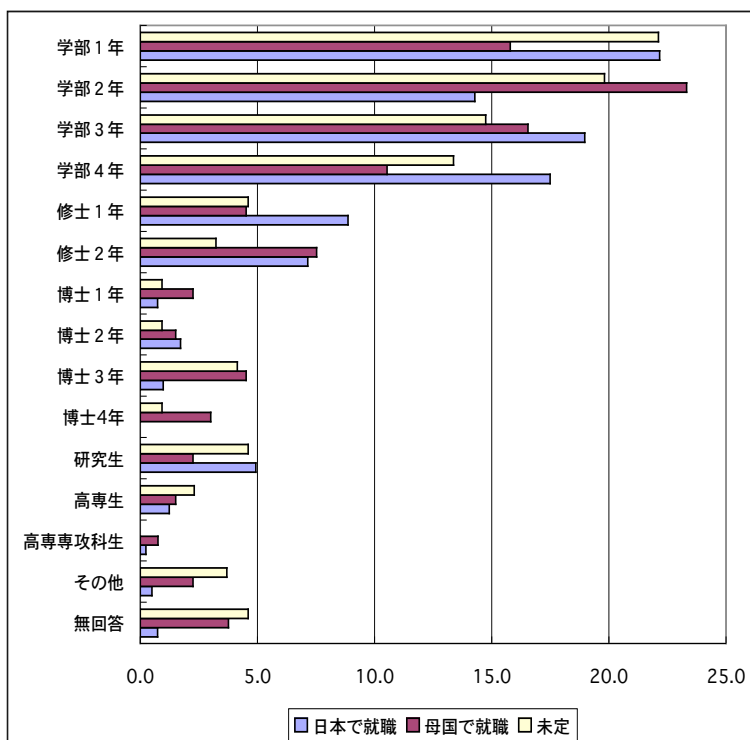


2-2. 留学生の年齢と学年

図 22 をみると、回答者に学部生が多いが、これは静岡県内の留学生は学部生としての在籍者が多いためである。留学生の学年別の平均年齢（表 3）を見ると、日本人学生一般と比べ、2～4才程度年齢が高いことが分かる。これは、大学入学前に日本語学校に在籍したり、研究科入学前に研究生として在籍するなど、入学前の準備期間があるためである。

年齢別の就職希望（図 23）をみると、学部学生にあたる 25 才ぐらいまでは、就職の希望は様々だが、修士学

図 22：学年別の就職希望（％）

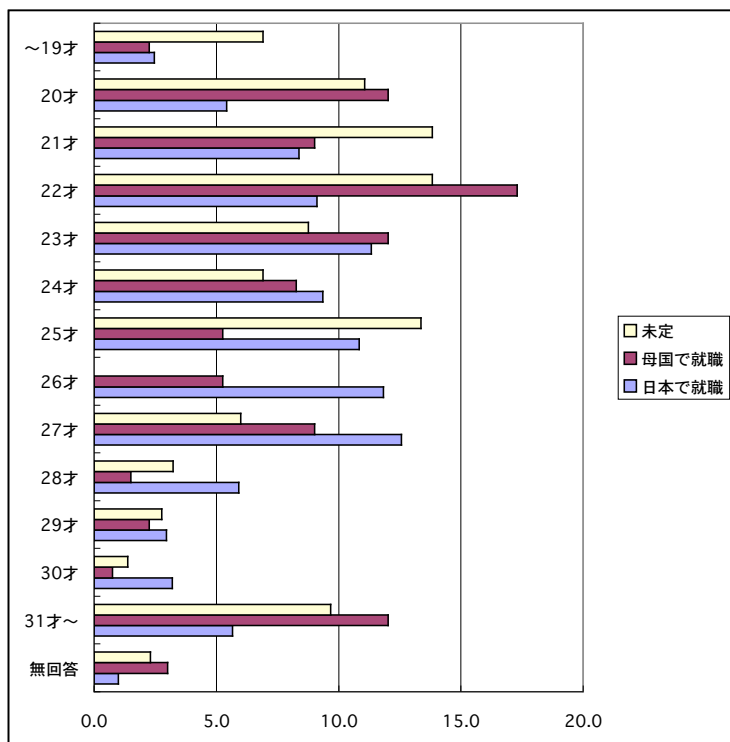


生にあたる 26～28 才では日本での就職希望者が多くなる。学部在籍中はまだ進学か就職かを明確に決めていないが、修士学生は、学士課程を日本、または母国で終え、初めから卒業後を見据えて入学するためだと思われる。また、博士学生にあたる 30 才以上では母国での就職が目立ってくる。博士課程では、国費留学生の割合が増えること、また年齢が高いため家族がいる場合が多いことが、母国での就職に関心を持たせているのだと推測される。この他にも、例えば、静岡大学の博士留学生の場合、2005 年より英語コースが開設され、在籍する留学生は英語を媒介語にして研究生活を送る。そのため、日本で就職活動するための日本語力を望むことが難しくなる。このような博士課程ならではの事情も、日本での就職より母国での就職に目を向ける要因だと考えられる。

表 3：留学生の学年別平均年齢（才）

	学部				修士		博士	その他	
	1年	2年	3年	4年	1年	2年		研究生	高専、別科
日本で就職	22	24.5	25	26	27	27.5	30.5	26.5	22
母国で就職	22	22.5	23	25	29	26	32	22	27
未定	21.5	23	23	26	27.5	30	33	25	23

図 23：年齢別の就職希望（％）



2-3. 日本滞在年数と就職の希望

表 4 をみると、日本滞在年数が 2 年を超えると、日本での就職希望者が増える。滞在年数が長くなることは、学年が上がることを意味し、学年進行により卒業後の進路を考える必要に迫られる。滞在年数が 4～5 年未満から未定の割合が少なくなるのは、卒業が目前となり、進路を決定した留学生が増えるためであろう。

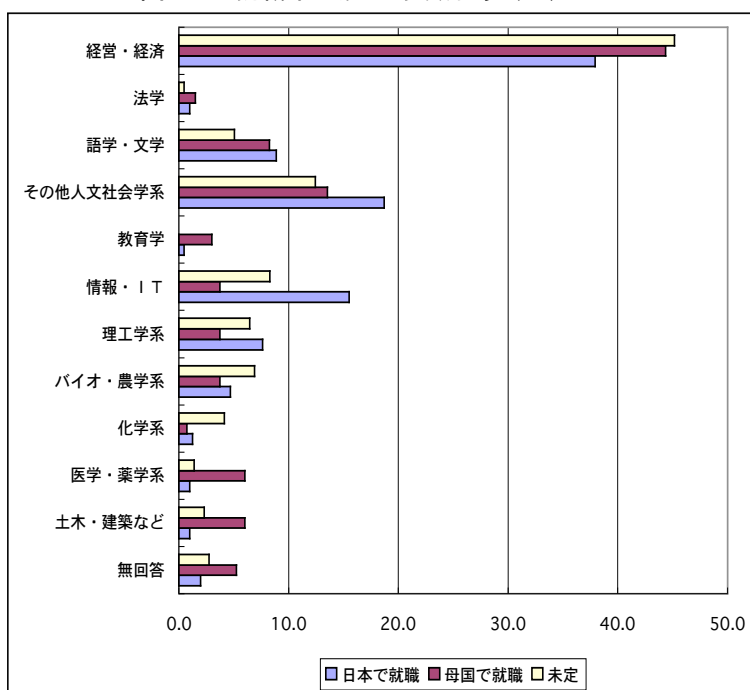
表 4：留学生の学年別平均滞日年数（年）

	学部				修士		博士	その他	
	1年	2年	3年	4年	1年	2年		研究生	高専、別科
日本で就職	1.68	2.86	3.56	4.62	3.26	4.45	4.94	2.64	1.99
母国で就職	1.36	1.66	2.34	4.29	3.17	3.8	3.82	0.65	2.39
未定	1.17	1.94	2.71	3.79	3.05	3.5	4.1	0.84	1.23

2-4. 留学生の専攻分野と就職の希望

図 24 を見ると、一見して専攻に偏りがあることが分かる。回答した留学生の 7 割が文系なのである。これは、静岡県に理系の学部を持つ大学が少ないことにもよると思われる。最も回答者数が多かった経営・経済専攻の留学生は、「日本で就職」「母国で就職」「未定」のいずれにおいても希望者が多い。人文系分野、情報・IT分野、理工学系分野の専攻者では、日本での就職希望者の割合が多い傾向がある。一方で、教育学、医学・薬学系、土木・建築では明らかに母国での就職を希望する割合が高い。これらの分野は、日本での勉学の成果をすぐ母国に

図 24：就職希望別の専攻分野（％）



還元できるという特色を持っており、そのために日本よりも母国での就職を選択する留学生が多かったのだと思われる。

2-5. 企業に関する具体的な希望

図 25 から、日本で就職したい場合も、母国で就職したい場合も、日本企業へ就職したい留学生が多いことが分かる。日本で就職する場合（図 26）は、静岡県での就職希望者が最も多く、次いで東京、名古屋であるが、日本国内であればどこでもよいという回答も多い。できれば現在の生活環境をあまり変えないまま

がよい、変えるのであれば静岡から近い大都市でという希望を持っていると思われる。

図 25：就職場所別の就職したい企業（％）

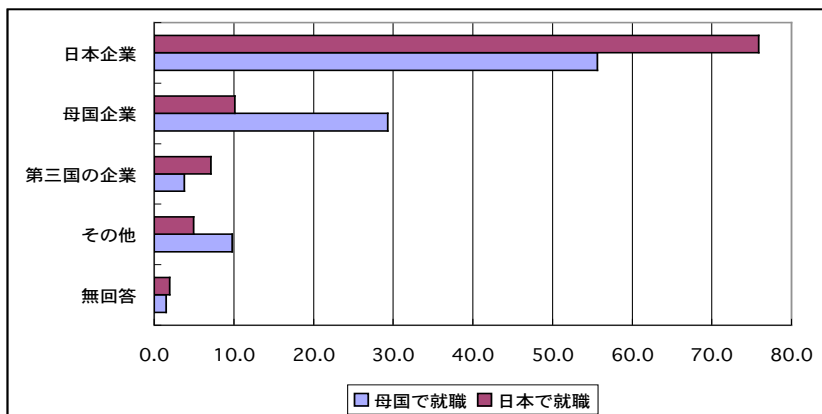
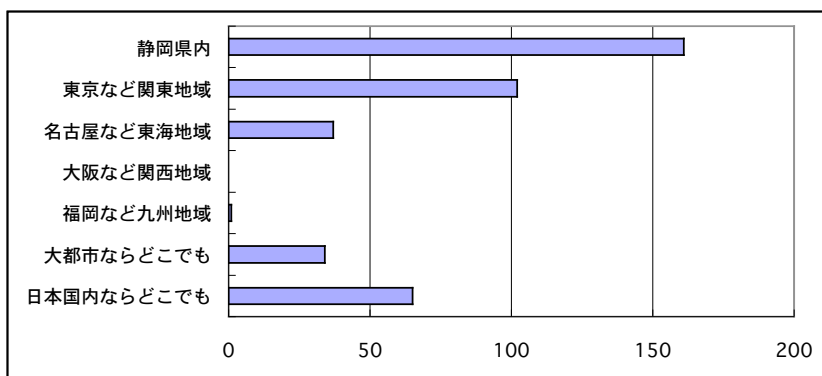


図 26：日本で就職する場合の希望勤務地（人）



次に、企業の規模や知名度への関心（図 27）は、日本で就職する場合、大企業希望者は中小企業希望者の倍近い希望があり、一見、大企業志向のように見えるが、規模は関係ないとする回答も回答者全体の 3 割を占めた。それぞれの理由（表 5）をみると、大企業を希望する回答者は、「安定性」や「給料が高い」を理由として多く挙げていた。一方で、中小企業を希望する回答者は、「自分の能力を試せる」「企業に将来性がある」と理由を述べている。また、中小企業のほうが「入社しやすい」、「職を得られるならどちらでもいい」という回答もあったが、多くは、中小企業のほうが大企業よりも活躍の機会が多いと思っているようである。数は少ないが、中小企業希望者の中には「（私が）有名にする」「だから（私が）大企業にする」という記述もあった。企業の知名度については、ただ有名だというよりも、その分野で有名な企業への就職希望者が多かった。日本で就職していろいろ学びたい、経験を積みたいという理由（「経験・知識の獲得」）は、企業規模に関係なく多くの留学生が挙げている。

企業規模不問、知名度不問の回答者では、自分の「関心・能力に合う」という回答も多い。自分に合う企業、やりがいのある仕事や自分のしたい仕事ができる企業であれば、企業規模や知名度は気にしないわけで

ある。ただ、このような回答者においては、やりがいのある仕事や自分のしたい仕事とは具体的に何か、自分に合う企業の具体的なイメージを持っているかが必ずしも明確でない可能性がある。

図 27：日本で就職する場合の企業規模と知名度への関心（人）

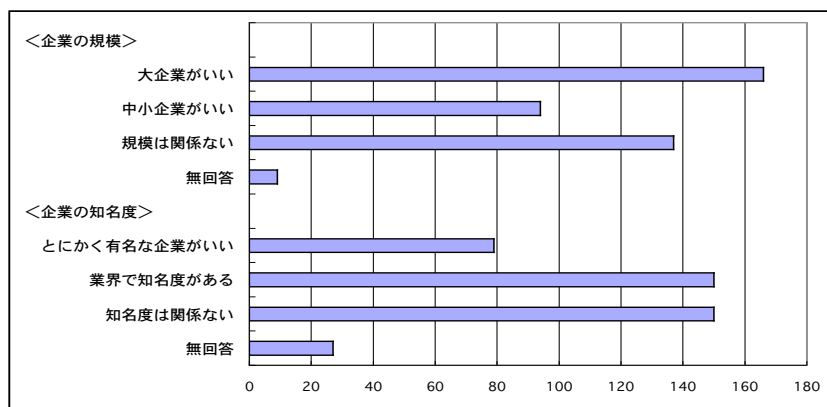


表 5：日本での就職希望留学生の企業選択理由（％）

	大企業 希望	中小企業 希望	企業規模 不問	有名企業 希望	業界で 有名企業 希望	知名度 不問
労働条件・環境がいい	14	10	1	8	3	2
企業に将来性がある	3	11	6	3	5	5
経験、知識の獲得	21	19	16	13	28	10
入社しやすい	1	11	4	3	0	2
安定性	26	5	1	8	3	0
自分の実力を試せる	6	14	1	3	1	0
給料が高い	12	3	1	10	0	0
社会的・経済的に成功する機会が多い	4	6	1	5	0	0
昇進で有利	0	5	2	18	3	0
技術力が高い企業が多い	3	2	1	0	12	0
関心・能力に合う	0	14	39	0	1	7
勉学の成果を発揮・活用	0	0	6	0	14	9
自分次第	0	0	12	0	0	9
福利厚生が整っている	8	0	0	0	1	0
その他	19	2	6	40	7	0
理由記述者数／希望者数	118／166	63／94	82／137	40／79	86／151	86／150

2-6. 日本における留学生の就職に対する要望

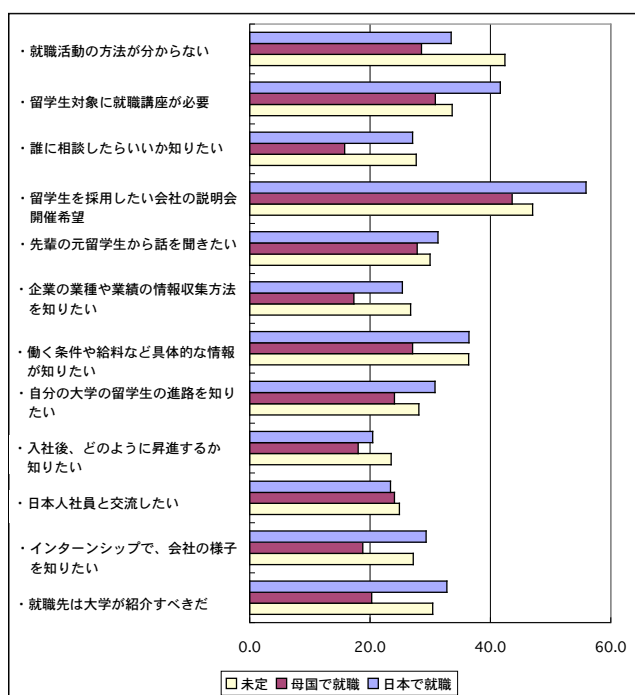
図 28 から、日本における就職に関して、留学生から企業説明会、就職講座に対する要望が多く、留学生が日本での就職に関する情報を求めていることが分かる。特に、「留学生」と限定していることから、留学生は日本人学生と同じではないと考えていることがうかがえる。また、「留学生を採用したい会社の説明会

開催希望」が「日本で就職」「母国で就職」「未定」のいずれにも多いことは、前述した通り、留学生採用希望の企業を知るチャンスがないことをあらわしているといえよう。

母国で就職を考えている留学生は、どの項目においても相対的に割合は低いですが、回答の傾向は、日本で就職を希望している留学生とそれほど違いはないようである。「就職活動の方法が分からない」で未定の留学生が最も多い。就職活動の方法が分かり、具体的なイメージが描ければ日本で就職か、母国で就職かを決められるのかもしれない。

「就職先は大学が紹介すべきだ」は、2～3割の留学生が挙げている。1-3 で企業は「大学からの推薦」や「大学教員への個別依頼」という方法で募集／採用を行っていることが多いと述べた。「就職先は大学が紹介すべきだ」という留学生の要望は、勉学、研究など大学生活にあてる時間を有効に使いたいという思いの表れであろう。企業の思惑と留学生の思惑が一致していることがわかる。

図 28：日本での就職に関する要望（％）



2-7. 留学生が抱いている日本での就職に関するイメージ

図 29 をみると、とにかく「難しい」「不安だ」という回答が多い。これは、経験がないことによる不安、将来を決める第一歩に対する不安に加えて、情報不足が大きく影響を与えていると言える。2-6 で述べたように、就職の希望に関係なく、留学生は日本での就職に関する情報をあまり得ていない。そのため、先輩からの情報や噂などから、まず「難しい」「不安だ」というイメージを持ってしまうのではないかと。また、留学生は日本人学生とは違う、しかも不利であるという気持ちも強く、「留学生は日本人学生よりも有利そう

だ」という回答、「留学生でも日本人学生でも特別な違いはない」という回答は少ない。

2-6 では、留学生からの要望は、日本で就職でも母国で就職でも未定でも、回答の傾向にあまり違いがないと述べたが、イメージは、就職の希望によってやや回答の傾向が異なる。「就職後、成功のチャンスが少ない」は、母国での就職希望者が最も多い。だからこそ、母国で就職したいのだろう。「日本企業は留学生を採用したいようだ」という回答は、日本での就職希望者で 20%を超えている。不安だとする回答が多かったことと矛盾するようだが、昨今の日本企業の世界進出により、留学生採用の機会が増えていることは、ある程度理解されているようである。

図 29：日本での就職について抱いているイメージ (%)

